

平成二十六年 度（第2回） 高校生世代「人権の詩<sup>うた</sup>」

【入選】

嗤う僕は強かった

森山 有

嗤う僕は強かった

見かける度に指さして

優越感に浸っていた

嗤う僕は強かった

嫌な自分見たくなくて

八つ当たりを繰り返してた

嗤う僕は弱かった

人を見下すことでしか

自分を認めてあげれない

もう誰かを嗤わない

誰もが笑える日常を

僕は実現してみせる